

安全と安心をもたらす 進化した予防安全パッケージ

Lexus Safety System +

レクサスは、世界トップレベルの先進安全技術をより早く開発し、より多くのクルマに普及させていくことが重要との考えのもと、予防安全パッケージ、「Lexus Safety System +」を搭載しています。「単眼カメラ＋ミリ波レーダー」の構成はそのままに各機能を拡充・進化させ、事故の防止や交通事故死傷者のさらなる低減と、ドライバーの負担軽減をめざしています。

Lexus Safety System +		
プリクラッシュセーフティ	対車両	レーンディパーチャーアラート[LDA]
	対歩行者	レーントレーシングアシスト[LTA]
	対自転車運転者(昼夜)	ドライバー異常時対応システム
	対自動二輪車(昼)	レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)
	交差点衝突回避支援(出合頭車両)	アダプティブハイビームシステム[AHS] "version L" "version C"*
	交差点衝突回避支援(右左折)	オートマチックハイビーム[AHB] "version C"
	緊急時操舵支援	ロードサインアシスト[RSA]
	低速時加速抑制	発進遅れ告知機能[TMN]
	音声発話(プラスサポートモードのみ)	プロアクティブドライビングアシスト[PDA]

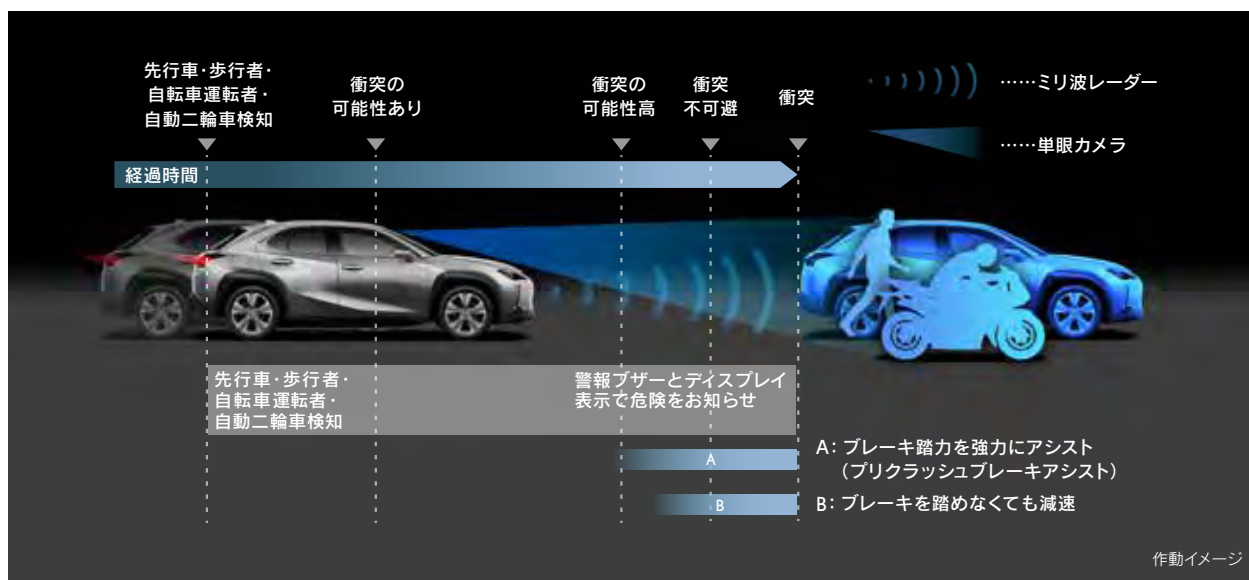
*三眼フルLEDヘッドランプ(ロー・ハイビーム)&LEDフロントターンシグナルランプを選択した場合、アダプティブハイビームシステム[AHS]とヘッドランプクリーナーは同時装着となります。また、オートマチックハイビーム[AHB]とアダプティブハイビームシステム[AHS]は同時装着できません。

幅広いシーンに対応するプリクラッシュセーフティ[1]

プリクラッシュセーフティ

(歩行者[昼夜]・自転車運転者[昼夜]・自動二輪車[昼]検知機能付衝突回避支援タイプ/ミリ波レーダー＋単眼カメラ方式)

進路上の車両、歩行者、自転車運転者、自動二輪車をミリ波レーダーと単眼カメラで検出。衝突の可能性が高いとシステムが判断した場合、ブザーとディスプレイで危険をお知らせ。ブレーキを踏めた場合はブレーキ踏力をアシスト、踏めなかった場合は自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。なお、対向車に対しては正面から衝突する可能性が高いとシステムが判断したとき、警報およびブレーキを作動させることによって、被害軽減を支援します。



※対向車に関しては、正面衝突、相手車逸脱による対向車との衝突に対応。プリクラッシュブレーキアシストは作動しません。

※プリクラッシュブレーキは、対車両の場合は自車速度約5km/h～180km/h、対歩行者、自転車運転者の場合は自車速度約5km/h～80km/hで作動します。また、本機能はドライバーの運転支援を目的としているため、機能には限界があり、道路状況、車両状態、天候状態およびドライバーの操作状態、歩行者や自転車運転者の状態等によっては、作動しない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。本機能を過信せず、必ずドライバーが責任を持って運転してください。公道を走行する時は、法定速度または制限速度を遵守してください。数値は社内測定値。

⚠ Lexus Safety System +を安全にお使いいただく上での留意事項説明

Lexus Safety System +は予防安全パッケージです。

ご契約に際し、Lexus Safety System +、およびその各システムを安全にお使いいただくための留意事項についてご説明いたします。

ご使用になる際のお客さまへのお願い

- 運転者には安全運転の義務があります。運転者は各システムを過信せず、つねに自らの責任で周囲の状況を把握し、ご自身の操作で安全を確保してください。
- 各システムに頼ったり、安全を委ねる運転をすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車両姿勢が変化する架装・改造や、各システムのカメラ・センサーを遮るような架装・改造を行うと、各システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ご使用前には、あらかじめ取扱説明書で各システムの特徴・操作方法を必ずご確認ください。

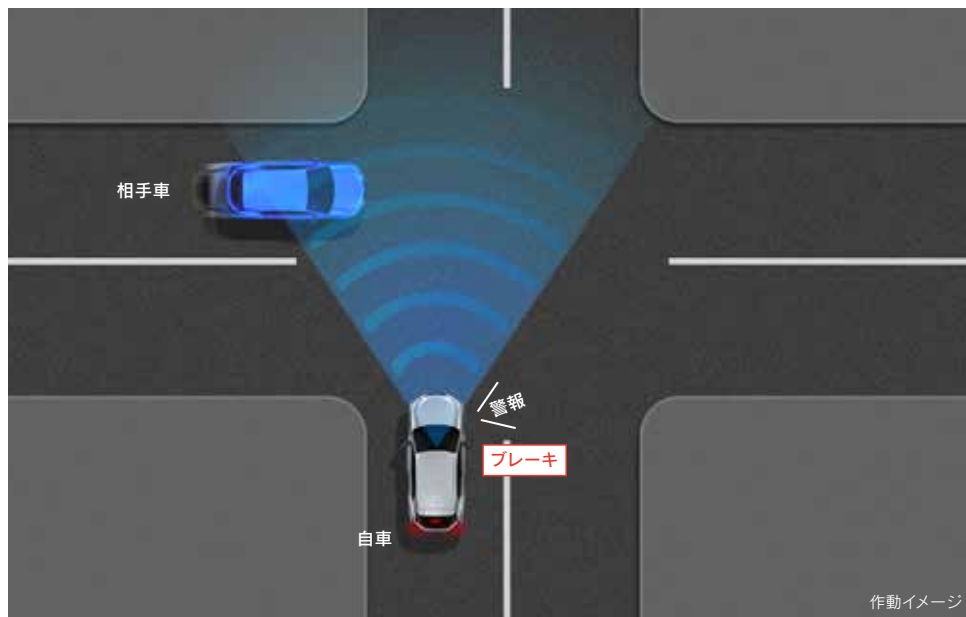
幅広いシーンに対応するプリクラッシュセーフティ[2]

< 交差点衝突回避支援 (出合頭車両) >

従来のプリクラッシュセーフティの作動範囲に加え、交差点で交差する車両・自動二輪車に対しても、衝突回避の支援を行います。衝突する可能性が高いとシステムが判断したとき、警報およびブレーキを作動させることによって、被害軽減を支援します。

※交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

※プリクラッシュブレーキアシストは作動しません。



< 交差点衝突回避支援 (右左折) >

交差点右折時に直進してくる対向車(隣接2レーンまで)および右左折時に横断してくる歩行者・自転車運転者をミリ波レーダーと単眼カメラで検出。警報およびブレーキを作動させることで、衝突回避または被害軽減をサポートします。また、プラスサポートモード中の場合は、右折時の対向車に対してより早いタイミングで表示とブザーで接近を伝えます(交差点对向車注意喚起)。

※交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

※プリクラッシュブレーキアシストは作動しません。

※カラーヘッドアップディスプレイは全車メーカーオプションで、パノラミックビューモニター(床下透過表示機能付)と同時装着となります。
なお、パノラミックビューモニター(床下透過表示機能付)は単独で選択することもできます。



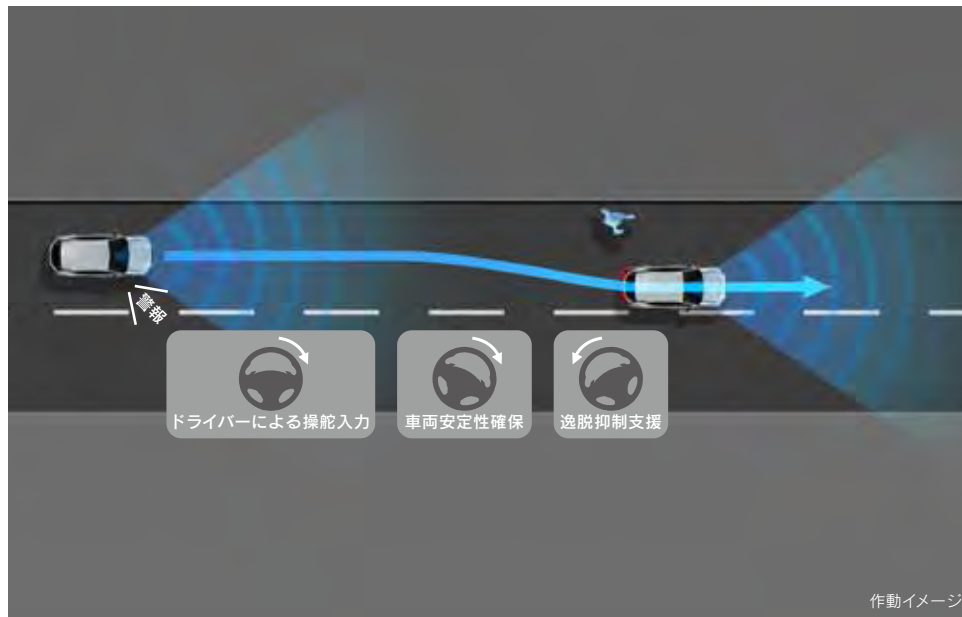
幅広いシーンに対応するプリクラッシュセーフティ[3]

<緊急時操舵支援>

歩行者、自転車運転者、自動二輪車、車両と衝突する可能性が高く、自車線内に回避するための十分なスペースがあるとシステムが判断した場合で、ドライバーの回避操舵があったとき、操舵支援を行い、車両安定性確保と車線逸脱抑制に寄与します。

※回避するための十分なスペースがない、また、回避先に物があるとシステムが判断した場合には作動しません。

※横断歩行者など一定以上の横速度を持った対象には作動しない場合があります。



<低速時加速抑制>

低速時の自車の直前にある壁、歩行者、自転車運転者、車両をミリ波レーダーと単眼カメラで認識。前方に対象物がある状態で、停車または徐行状態からアクセルペダルが必要以上に強く踏み込まれた場合には、エンジン出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制し、衝突回避または被害軽減をサポートします。また、衝突が回避され、かつ車両が停止した場合、ドライバーがアクセルまたはブレーキ操作をするまでブレーキ力を保持します。

※パーキングサポートブレーキ(前後方静止物) [PKSB]の代替機能となるシステムではありません。



幅広いシーンに対応するプリクラッシュセーフティ[4]

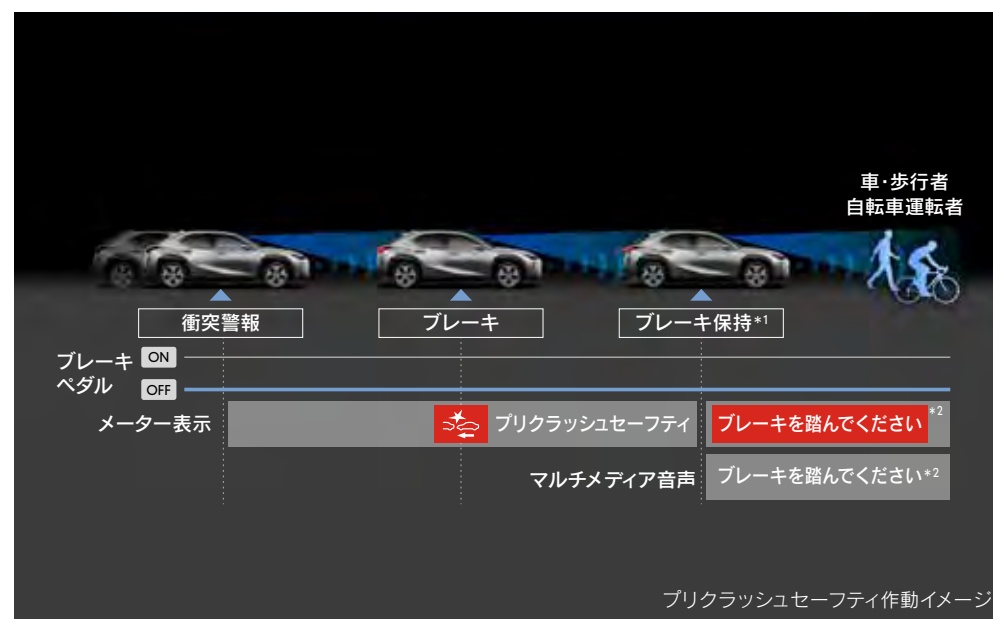
< 音声発話(プラスサポートモードのみ) >

下記のシーンにおいて、メーター表示と音声発話を行いドライバーへ通知します。



*1. 衝突前に車両が停止した場合のみ作動。

*2. プリクラッシュセーフティの作動状況によって上記の通りにならない場合があります。



快適なクルージングをサポートしてくれるLDA / LTA

レーンディパーチャーアラート[LDA]

車線逸脱の可能性をドライバーにお知らせします。システムのON/OFFは、タッチディスプレイにて行うことができます。

<車線逸脱警報機能 / 車線逸脱抑制機能>

車線から逸脱するおそれがある場合にカラーヘッドアップディスプレイ、メーターへの表示、およびステアリングの振動または警報ブザーにより警告するとともに、車線からの逸脱を避けるためのステアリング操作を支援します。また、ブラインドスポットモニター[BSM]と連携して方向指示燈の点滅中であっても、隣の車線を走行中の車両と衝突する可能性がありますと判断した場合、車線逸脱警報/抑制機能が作動し、音声でお知らせします。さらに、歩行者や駐車車両を避けるための意図的な車線逸脱と判断した場合は車線逸脱警報/抑制機能の作動を抑える機能を採用しました。車線だけでなくアスファルトと草・土などの境界や縁石、ガードレールなどの構造物も認識対象としてシステムが作動します。

※レーンディパーチャーアラート[LDA]、レーンレーシングアシスト[LTA]は自動で運転する装置でも周囲への注意を軽減する装置でもないため、運転者はつねに自らの責任で周囲の状況を把握し、ステアリング操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

※故意に車線から逸脱して走行するなど、各システムの作動を確認する行為はたいへん危険です。絶対におやめください。

※安全性の観点から、ドライバーはステアリングを持ち続ける必要があります。手を放すと、レーンレーシングアシスト[LTA]が停止します。
※例えば次のような条件下では、レーンディパーチャーアラート[LDA]、レーンレーシングアシスト[LTA]が正常に作動しないおそれがあります。

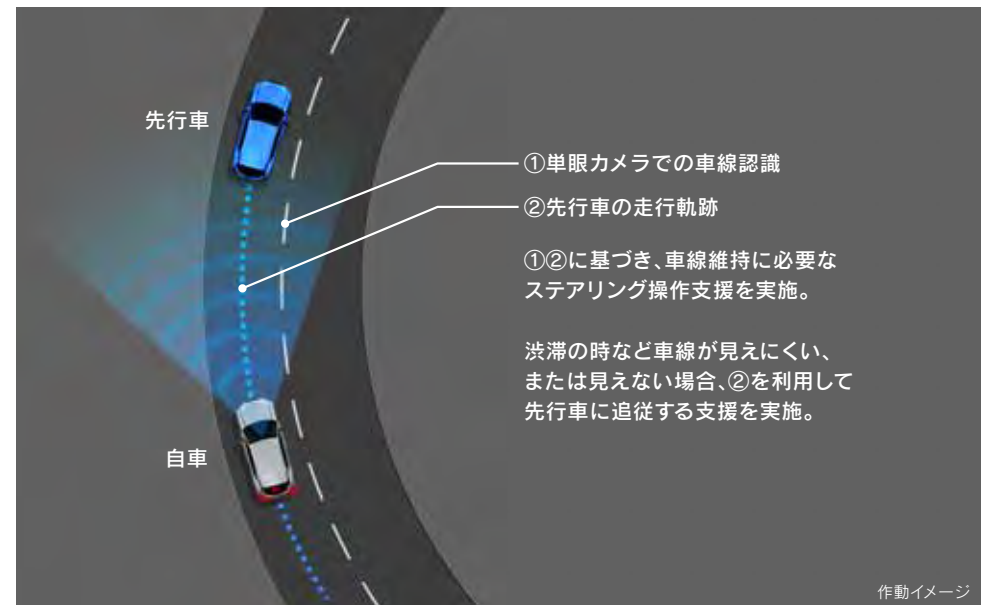
- 車線または走路の認識が困難なシーン(悪天候、逆光、濡れた路面、線がかすれている、急カーブ、急勾配、分合流付近など)
- タイヤに変化がある時(応急用タイヤ、タイヤチェーン装着時など) ※例えば次のような条件下ではシステムの作動条件が満たされずレーンディパーチャーアラート[LDA]、レーンレーシングアシスト[LTA]の作動をキャンセルする場合があります。
- 車線を見失った時
- ドライバーの追加運転操作を検知した時(ステアリング、ブレーキ、アクセルの操作など) など ※レーンディパーチャーアラート[LDA]は約50km/h以上で作動します。路外の構造物に対しては約35km/h以上で作動します。ただし、レーンレーシングアシスト[LTA]支援中は約50km/h未満でも車線逸脱警報機能が作動します。 ※作動車速以上で走行しドライバーの目で車線が見える場合でも、山間部や市街地などに見られる次のような状況では、レーンディパーチャーアラート[LDA]が作動しない、または安定して作動しない場合があります。
- 急カーブや急勾配を走行する時
- 車線幅が狭い、または変化している時 など ※レーンレーシングアシスト[LTA]が先行車に追従する支援を行う場合、先行車が車線を右、または左に片寄って走行、または車線変更した時は、先行車の位置に合わせて自車も片寄って走行し、レーンをはみ出すおそれがあります。先行車がふらついた時は、自車もふらついて走行し、レーンをはみ出すおそれがあります。 ※カラーヘッドアップディスプレイは全車メーカーオプションで、パノラミックビューモニター(床下透過表示機能付)と同時装着となります。なお、パノラミックビューモニター(床下透過表示機能付)は単独で選択することもできます。

レーンレーシングアシスト[LTA]

高速道路や自動車専用道路を走行中、レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)の作動時、車線維持に必要なステアリング操作支援を行います。なお、システムのON/OFFは、ステアリングホイール上に設置されたメインスイッチで行うことができます。

<車線維持支援機能>

緩やかなカーブで操舵を支援し、滑らかにふらつき少なくレーン中央をキープする走行が可能です。車線が検出困難な場合でも先行車に追従する支援を行います。また、シーンに合わせて車線維持のトレース位置を走路中央からオフセットする制御を採用。隣接車線の車両を追い抜いたり、路外の構造物との距離が近い場合などは、一般的なドライバーの運転と同様に、走路中央よりも回避側にトレース位置をオフセットします。



車線内の停車と救命要請を自動で行う

ドライバー異常時対応システム

レーントレーシングアシスト[LTA]制御中にドライバーの無操作状態が継続している場合、音と表示と緩減速による警告でドライバーに操作を促すほか、ハザードとホーンで車外に異常を報知しながら自車線内に減速停車し、自損・加害事故の回避・事故被害低減を支援します。停車後は、ドア解錠やヘルプネット[®]*自動接続による救命要請も行い、早期のドライバー救命・救護に寄与します。

*ヘルプネット[®]はG-Linkに含まれるサービスです。G-Linkのご利用には別途契約が必要となります。詳しくは17ページをご覧ください。

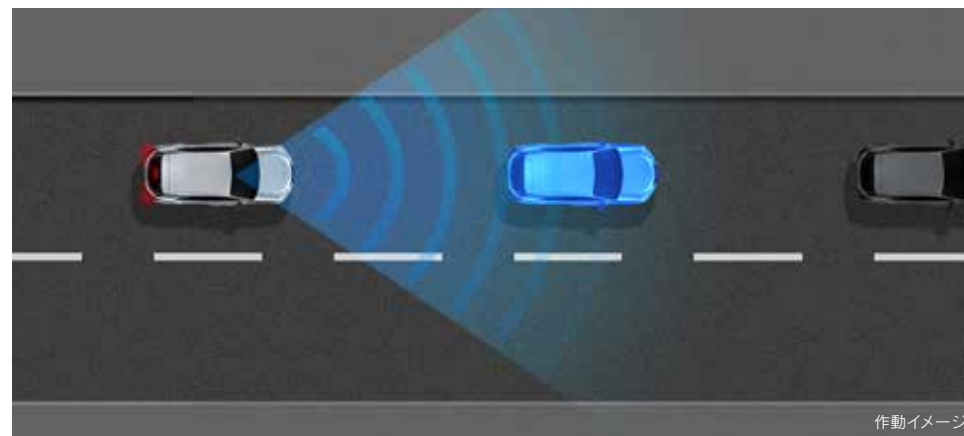
※ドライバー異常時対応システムは自動車専用道路（一部を除く）を約50km/h以上で走行している場合に作動します。体調異常を直接検知できるわけではないため、システムが正常な運転操作と判定した場合は作動しません。

車間距離を保ちながら追従走行する

レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)

ミリ波レーダーと単眼カメラで先行車を認識し、設定した車間距離を保ちながら追従走行を支援します。先行車が停止した時は自車も停止して停止状態を保持、先行車が発進した時はドライバー操作により発進し、追従走行を再開します。高速道路の渋滞走行時など、停止・発進を繰り返すシーンで、ドライバーの運転負荷を大幅に軽減します。また、ミリ波レーダーおよび単眼カメラの検知範囲拡大などにより前方認識範囲を拡大。先行車認識、進路判定、割り込み車検知などに対し、すぐれた認識性能を確保しています。また、約80km/h以上でウインカー操作をした際、遅い先行車を追い越すための予備加速、または、車線変更先にいる遅い先行車に追従するための予備減速を実施。スムーズな追い越しや車線変更が行えるようにしました。さらに、レーダークルーズコントロールで走行中、システムが前方のカーブを検知すると、早期に速度抑制を開始するカーブ速度抑制機能を装備しています。また、レーダークルーズコントロール作動中に、音声対話サービスを使用して、設定車速と車間設定を変更できます。なお、制御の開始、車間制御モードと定速制御モードの切り替えを、シンプルなスイッチ操作で行うことができ、すぐれた使用性も追求しています。

※本機能は、ドライバーの運転支援を目的としているため、機能には限界があり、道路状況、車両状態および天候状態等によってはご使用になれない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。



作動イメージ

先行車や対向車に直接ハイビームを当てない

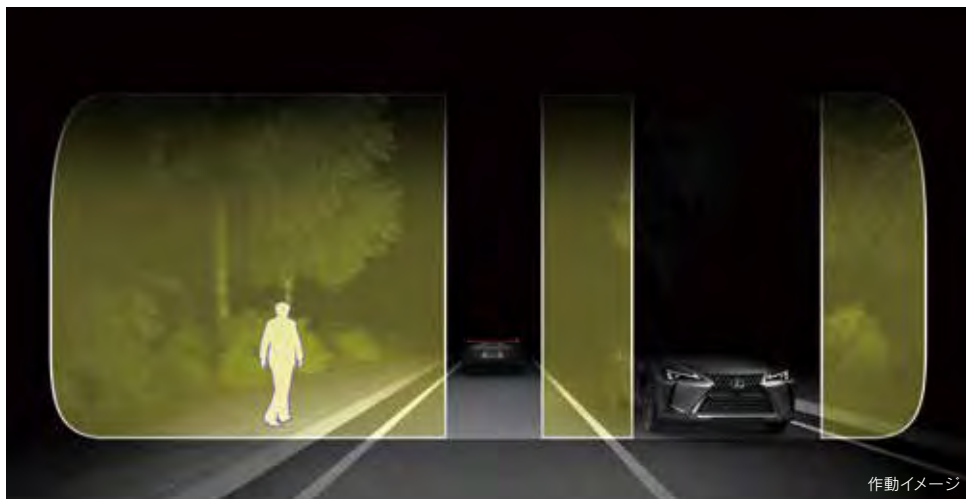
アダプティブハイビームシステム[AHS]

すぐれた視認性を確保するLED点消灯式AHS。片側11個のLEDの点灯・消灯を制御することで、細やかに照射/遮光します。単眼カメラにより前方の車両光源を検出し、ヘッドランプの配光を先行車両や対向車両に直接ハイビームを当てないように、最適な状態に切り替えます。

"version L" "version C" *

* 三眼フルLEDヘッドランプ(ロー・ハイビーム) & LEDフロントターンシグナルランプを選択した場合、アダプティブハイビームシステム[AHS]とヘッドランプクリーナーは同時装着となります。また、オートマチックハイビーム[AHB]と同時装着はできません。

※道路状況、車両状態および天候状態等によっては、ご使用になれない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。



ロー・ハイビームを自動で切り替え

オートマチックハイビーム[AHB]

夜間走行時に、周囲の明かりの状況によりハイビームで走行可能と判断した場合、ロービームをハイビームに自動的に切り替え、前方視界確保を支援します。

"version C"

※ロー・ハイビームの切り替え自動制御には状況により限界があります。運転時はつねに周囲の状況に注意し、必要に応じて手動で切り替えるなど、安全運転を心がけてください。

道路標識を表示し告知も行う

ロードサインアシスト[RSA]

単眼カメラで認識した「最高速度」「はみ出し通行禁止」「一時停止」「転回禁止」の道路標識を、メーターに表示。また、「最高速度」「車両進入禁止」「赤信号」の道路標識や信号に従っていないとシステムが判断した場合、表示の反転や点滅、ブザーなどでドライバーに告知します。それらにより、道路標識などの見落としを減らし、安全運転を促します。

※道路状況、車両状態および天候状態等によっては、ご使用になれない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。



信号機や先行車を検知して自車の発進遅れを知らせる

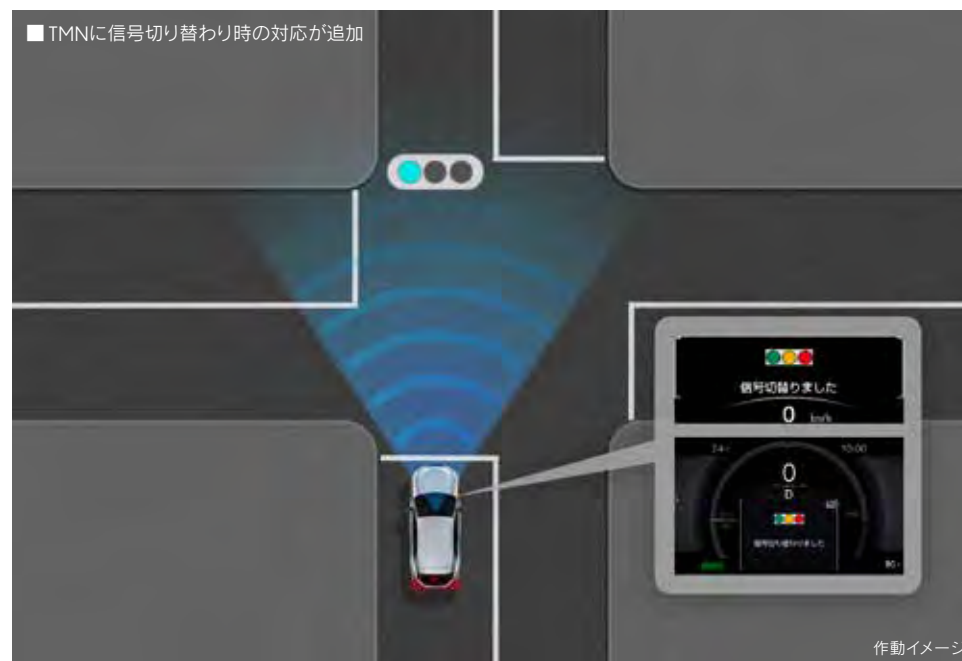
発進遅れ告知機能[TMN]

信号の表示や先行車の動きをミリ波レーダーと単眼カメラで検出。交差点先頭で停止時に信号の停止表示が解除されても自車が停止し続けた場合、または、先行車が発進し一定距離を走行してもなお自車が停止し続けている場合に、メーター表示、およびブザーなどでお知らせします。

※右折矢印信号も検知可能です。

※シフトポジションが「P」「R」以外でブレーキペダルを踏んで停車している時に作動します。シフトポジションが「N」の時、またはレーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)機能で自車が停止した場合、さらにシフトポジションが「D」の時にブレーキホールドを使用した場合は、ブレーキペダルを踏んでいなくても作動します。

※先行車が約4m以上進んでも自車が止まったままだとシステムが判断した場合に作動します。なお、機能のON/OFFおよび通知タイミングの変更が可能です。詳しくはレクサス販売店におたずねください。



運転をさりげなく支援する [1]

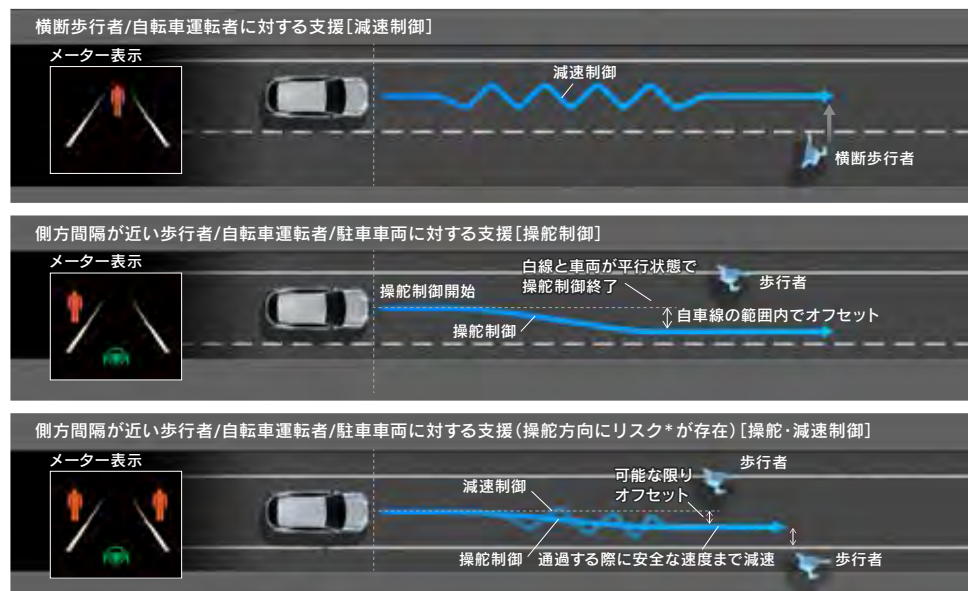
プロアクティブドライビングアシスト [PDA]

「歩行者の横断」「飛び出してくるかもしれない」など、運転の状況に応じたリスクの先読みを行うことで、危険に近づきすぎないように運転操作をサポートし、ドライバーの安心につながります。さらに先行車や前方のカーブに対して減速操作をサポートし、頻繁な踏みかえ操作を軽減することにより、一般道などのシーンでドライバーの運転に寄り添いやさしくサポートする機能です。以下5つを備え、運転状況に応じて適切な操作をサポートします。

<1. 歩行者/自転車運転者/駐車車両に対する操舵・減速支援>

リスクを先読みし、危険に近づきすぎないようにステアリング・ブレーキ操作をサポートします。

※本支援は自車速が約30km/h～約60km/hのときに作動します。



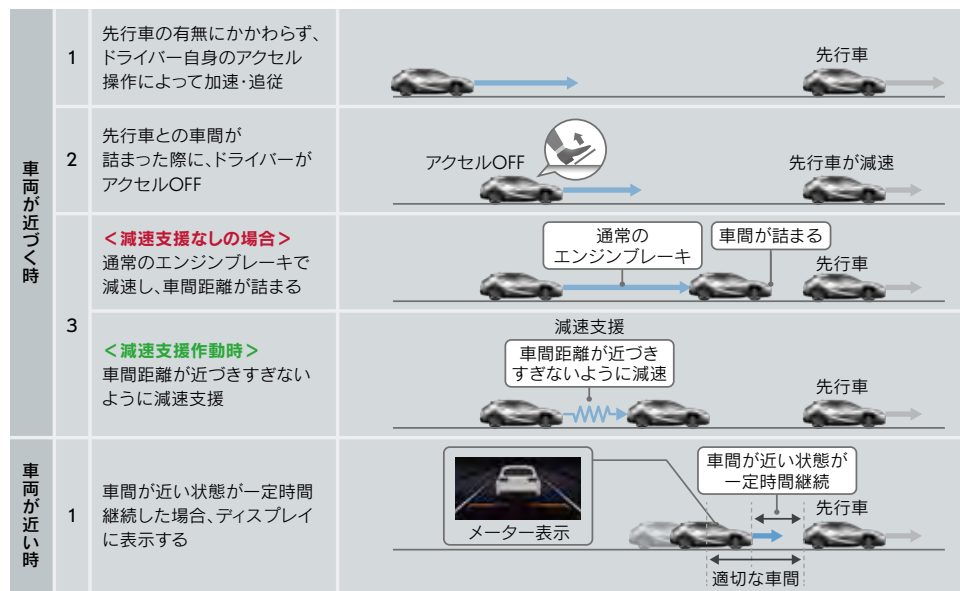
* 歩行者/自転車運転者/周辺車両

作動イメージ

<2. 先行車に対する減速支援>

先行車や隣接車の割り込みを検出した時、ドライバーのアクセルOFFに応じて、車間距離が近づきすぎないように緩やかに減速します。

※約15km/hまで減速すると、システムによるブレーキアシストは停止します。



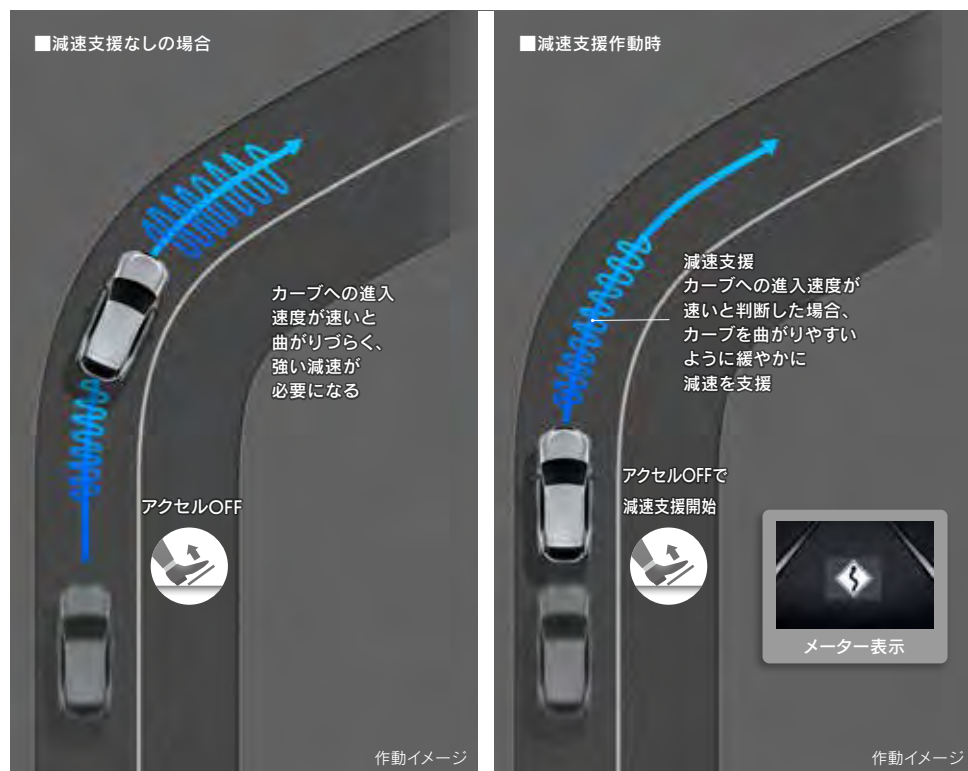
作動イメージ

運転をさりげなく支援する [2]

プロアクティブドライビングアシスト [PDA]

<3. カーブに対する減速支援>

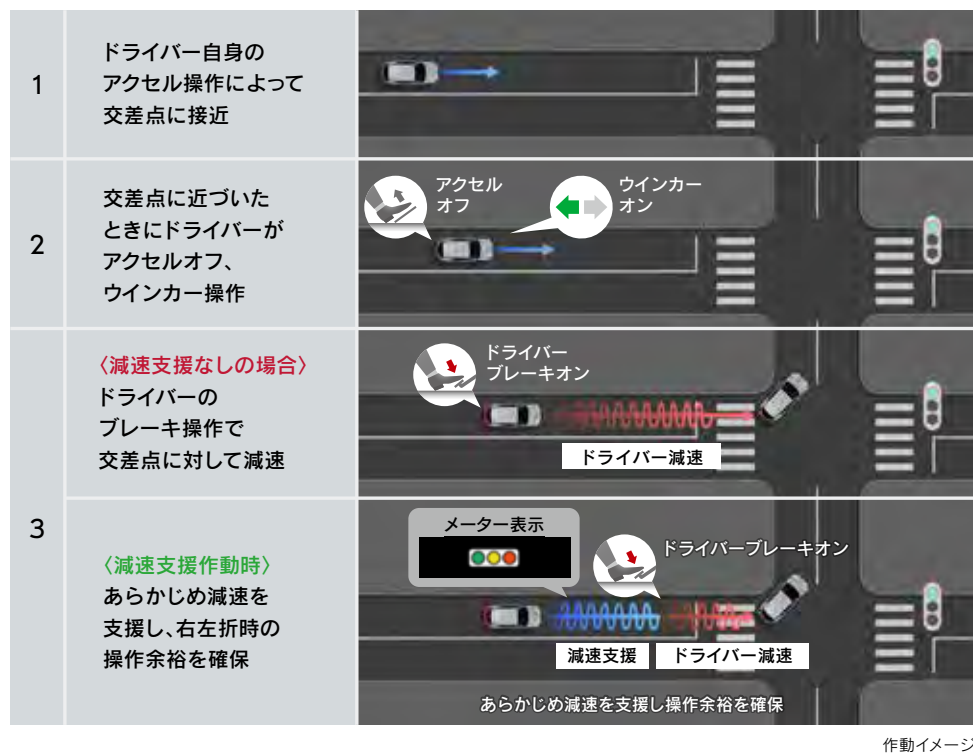
前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ドライバーのアクセルOFFに応じて緩やかに減速します。



<4. 信号交差点に対する右左折時減速支援>

信号交差点への接近を検出した時、ドライバーのアクセルOFFとウインカー操作に応じて、緩やかに減速します。

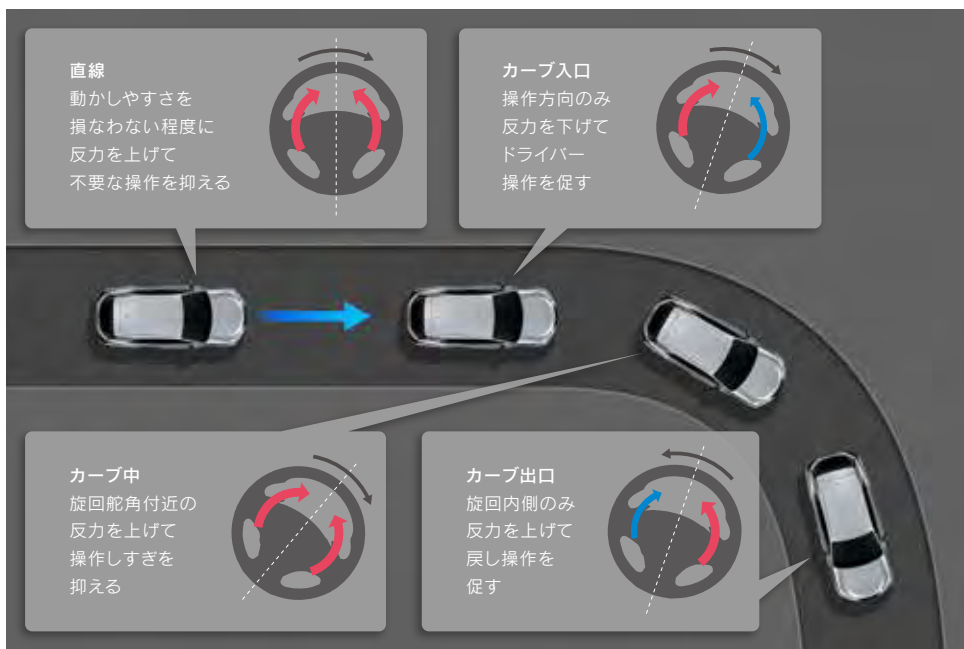
※本支援は自車速が約30km/h～約80km/hのときに作動します。



運転をさりげなく支援する[3]

<5. 車線内走行時常時操舵支援>

ドライバーの操作を先読みして、ステアリング反力を変化させることで、不要な操作を抑えたり、操作遅れを防止し、スムーズな走行をサポートします。また、反力変化のみでステアリングを自動で回すことはありません。



作動イメージ

無線通信により更新が可能

ソフトウェアアップデート

DCM(Data Communication Module)による無線通信で、レクサス販売店へ入庫することなく性能向上のためのソフトウェア更新が可能なOTA(無線通信)によるソフトウェアアップデート機能を設定しました。OTAによるソフトウェア更新中も、通常通りの車両走行、Lexus Safety System +機能が使用可能。ソフトウェアの更新は、パワースイッチON時のみ実施されます。



車両直下やタイヤ付近の状況も把握可能

パノラミックビューモニター(床下透過表示機能付)

運転席から目視しにくい車両周囲の状況をリアルタイムで確認できます。ボディやシートを透かして見たようなシースルービューや、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューも採用。さらに、床下透過表示機能*の設定により、車両直下およびタイヤ付近のアンダーフロア映像を表示して、駐車やすり抜けを支援します。

全車

*あらかじめ12.3インチディスプレイオーディオ(コネクティッドナビ対応)Plusにて床下透過表示機能を設定(ON)することで、車体の動きに連動し、床下透過画像が表示されます。

※画面に映る人や障害物は実際の位置や距離と異なります。映像を過信せず、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら運転してください。なお、字光式ナンバープレートは装着できません。



サイドクリアランスビュー表示

車両後方より車両前側を見たような映像を表示。狭い道でのすれ違いや路肩への幅寄せ時に、車両側方の安全確認をサポートします。



コーナリングビュー表示

サイドクリアランスビュー表示中に、旋回時の運転操作に合わせて自動で車両を斜め後方から見たような映像を表示。狭い道で右左折時の安全確認や、車道に入る時の縁石乗り上げ防止をサポートします。

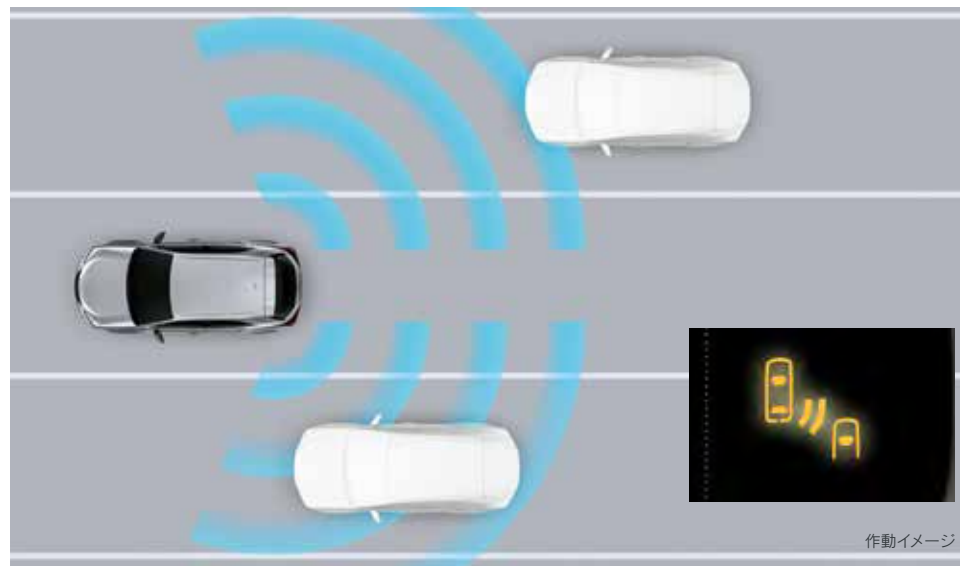
車両後側方の安全性に寄与

ブラインドスポットモニター[BSM]

走行中、ドアミラーでは確認しにくい後側方エリアに存在する車両に加えて、隣接する車線の最大約60m後方までモニターし、急接近してくる車両も検知します。車両を検知するとドアミラー内のインジケーターが点灯、車両を検知した状態でウインカーを操作するとインジケーターが点滅し、より注意を喚起します。

※道路状況、車両状態および天候状態等によっては、ご使用になれない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。

※ブラインドスポットモニター[BSM]はあくまで運転補助機能です。本機能を過信せず、運転に際してはドライバーご自身で周囲の安全状況を直接確認してください。詳しくはレクサス販売店におたずねください。



作動イメージ

降車時の危険を知らせる

安心降車アシスト[SEA]

降車時、ブラインドスポットモニター[BSM]のセンサーを活用し、後方からの自転車を含む接近車両などを検知。開放後のドア、もしくは降車した乗員と衝突する可能性がある場合とシステムが判断した場合、ドアミラー内のインジケータを点灯させ注意を促します。また、ドアを開けようとした場合、ドアミラー内のインジケータ点滅、ブザー、メーター表示で乗員へ告知します。



追突の可能性を後続車に知らせる

後方車両への接近警報

追突の可能性が高い後続車に対し、ハザードランプを高速点滅させて注意喚起します。自車両と同一レーンを走行する後続車をブラインドスポットモニター[BSM]の後側方ミリ波レーダーにより検知し、後続車との距離、相対速度、方向等から追突の可能性を判断します。追突される可能性が高い場合にハザードランプを約2秒間高速点滅させ、後続車に注意喚起します。

リスクに備えドライバーの安心感を高める装備[1]

パーキングサポートブレーキ[PKSB]

〈前後方静止物〉

低速走行時に壁などの静止物までの距離と危険度を、12.3インチディスプレイオーディオ(コネクティッドナビ対応)Plus、およびブザーなどでお知らせします。低速走行時に壁などの静止物と衝突する可能性が高いと判断した場合、衝突被害軽減ブレーキをかけます。

〈後方接近車両〉

後退して出庫する際、自車後側方から接近する車両の存在を、ドアミラー、12.3インチディスプレイオーディオ(コネクティッドナビ対応)Plus、およびブザーでお知らせします。自車後側方から接近する車両と衝突する可能性が高いと判断した場合、衝突被害軽減ブレーキをかけます。

後方接近車両の検知イメージ



※本機能は、ドライバーの運転支援を目的としているため、機能には限界があり、道路状況、車両状態、天候状態およびドライバーの操作状態等によっては、作動しない場合があります。本機能を過信せず、必ずドライバーが責任を持って運転してください。詳しくはレクサス販売店におたずねください。

※パーキングサポートブレーキ[PKSB]が作動した場合でもブレーキ制御は2秒で解除されるため、そのまま前進・後退できます。また、ブレーキペダルを踏んでもブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進・後退できます。

※立体物に対しても作動することがあります。ブレーキ作動後はブレーキを踏んで周囲の確認をお願いします。

※字光式ナンバープレートは装着できません。

リスクに備えドライバーの安心感を高める装備[2]

全席ELR付3点式シートベルト(運転席・助手席:テンションリデューサー・プリテンショナー[予防連携機能]・フォースリミッター機構付、後左右席:プリテンショナー[予防連携機能]・フォースリミッター機構付)

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断された場合、プリテンショナー機構*の作動を準備する機能を採用しています。

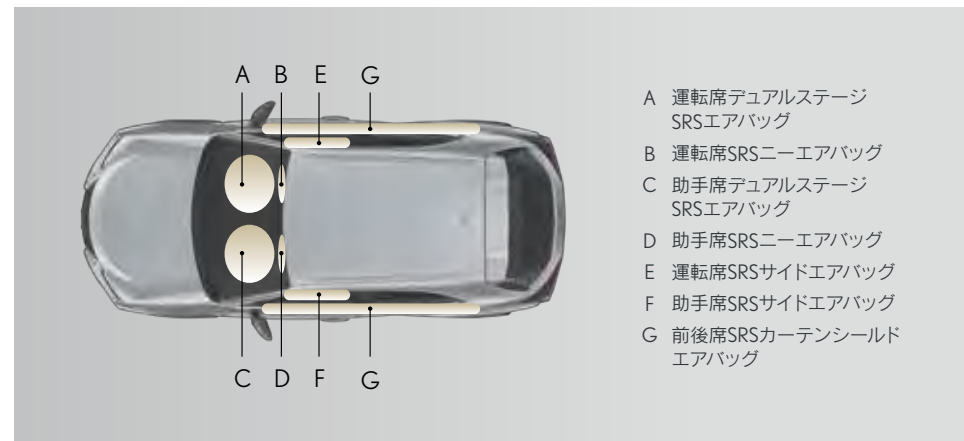
*前方からの強い衝撃を感知するとシートベルトを瞬時に巻き取り乗員の拘束効果を高める機構。

※プリテンショナー機構は衝突の条件によっては作動しない場合があります。

SRSエアバッグシステム(運転席・助手席デュアルステージ/ニー/サイド、前後席カーテンシールド)

運転席と助手席には、前方からの衝撃力に応じて展開するデュアルステージSRSエアバッグを採用。さらに、下肢を受け止めることで身体への衝撃力を分散・緩和するSRSニーエアバッグを設定。側方衝突に対してはSRSサイドエアバッグ、SRSカーテンシールドエアバッグを備えています。

※SRSエアバッグシステムは衝突時の条件によっては作動しない場合があります。SRSエアバッグはあくまでシートベルトを補助する装置ですので必ずシートベルトをご着用ください。

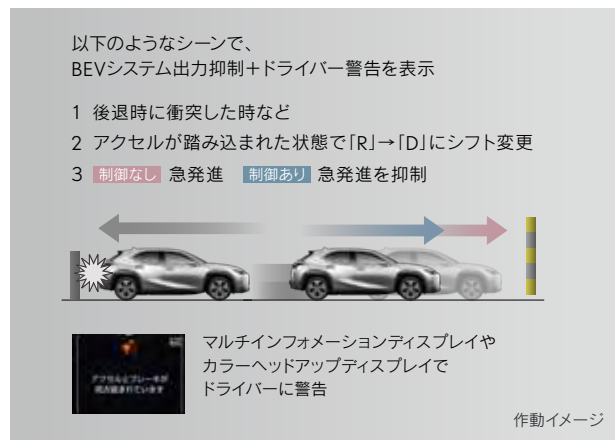


急な発進や加速を防止

ドライブスタートコントロール

シフト操作時における急発進・急加速を抑制し、衝突時の被害軽減に寄与します。例えば、後退時に衝突して慌てたドライバーが、アクセルを踏み込んだままシフトを「R」から「D」へ変更した際、表示で注意を促し、モーター出力を抑えます。

※カラーヘッドアップディスプレイは全車メーカーオプションで、パノラミックビューモニター（床下透過表示機能付）と同時装着となります。なお、パノラミックビューモニター（床下透過表示機能付）は単独で選択することもできます。



右左折時の視界確保をサポート

LEDコーナリングランプ

右左折時に、車両進行方向や側方へより多く配光することで、コーナリング時の安全運転に寄与します。



空気圧の低下を警告

タイヤ空気圧警告表示（マルチインフォメーションディスプレイ表示付）

空気圧が低下したタイヤがあると、メーター内のインジケータランプ点灯とともに、マルチインフォメーションディスプレイに空気圧の数値を反転表示します。パワースイッチONで空気圧を検出するため、走行前に確認が可能です。

※電波環境によっては空気圧の検出ができない場合があります。



ドライブの安心を拡張・更新するプラスサポート

[DEALER OPTION] プラスサポート 全車

専用キーでのドア解錠でプラスサポートが自動で始動します。

<急アクセル時加速抑制>

障害物の有無にかかわらず、アクセルの踏みすぎや踏み間違いを検知するとクルマの加速を抑制し、「アクセルが踏まれています」との音声発話と警報ブザー、ディスプレイ表示でドライバーに注意喚起する機能です。

<Lexus Safety System +の機能拡大>

プラスサポートモードがONの場合、Lexus Safety System + 各機能の挙動(警報タイミングや音声発話の有無)を、より安全な運転につながる方へ拡大します。

- ・プリクラッシュセーフティの交差点対向車注意喚起の作動
- ・ロードサインアシスト[RSA]で音声発話による注意喚起を実施 など

プラスサポート始動中の場合



プラスサポート無しの場合



作動イメージ

プラスサポート用スマートキー
(電子キー) (カードキー)



標準キーと区別しやすい、
サテンゴールド加飾の専用キーです。



マルチインフォメーション
ディスプレイ表示

※本製品にメカニカルキーは付属していません。標準スマートキーに付属のメカニカルキーを本製品に差し替えてご使用ください。

※メカニカルキーが無い状態では、電子キーの電池が切れた時にドアロックを解除できなくなります。メカニカルキーは追加で購入していただくことも可能です。レクサス販売店におたずねください。

※ブレーキを制御するシステムではありません。

※自車車速約30km/h以下で作動します。

※前進および後退時に作動します。

※アクセルを強く踏み込むような運転をした場合に、意図せずシステムが作動することがあります。

※プラスサポートで運転中でも、右左折時や車線変更時、一時停止位置や信号待ちからの発進時、急な坂道での発進や加速時には、通常どおり加速できます。ただし、方向指示レバーを操作せず右左折や車線変更をしたり、ブレーキを踏まない状態(ブレーキホールドでの停車中含む)から発進するとシステムが作動することがあります。その場合は、一度アクセルを離し、ゆっくり踏みなおせば加速が可能です。

※プラスサポート用スマートキー(電子キー・カードキー)と標準スマートキーは同時に携帯せず、目的に合った1種類のキーのみ携帯してください。プラスサポートが作動しない可能性があります。メーター表示で始動中をご確認ください。

全車 = ティーラーオプション

ITS専用周波数で通信し、安全運転をサポート



機能説明
動画はこちら



ITS Connect

クルマのセンサーでは捉えきれない見通し外の情報や信号等の情報を、クルマとクルマ、あるいは道路*とクルマが直接通信し、カラーヘッドアップディスプレイやマルチインフォメーションディスプレイでの表示、ブザー音でドライバーに知らせ、安全運転を支援するシステムです。

“version L” “version C”

*路車間通信システムに対応した路側装置は、2023年12月現在、宮城県、茨城県、埼玉県、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、広島県、福岡県に設置されています。

※本システムは「路側装置が設置された交差点」または「本システムが搭載された周辺車両」との間でのみ作動します。また、路側装置が設置された交差点であっても、交差点に進入する方向によっては、作動するシステムが異なる場合があります。本システムはあくまでも補助機能です。システムを過信せず、つねに道路状況に注意し、安全運転を心がけてください。

※緊急車両存在通知は通信機を搭載していない車両の存在は案内されません。ドライバー自身が周囲の安全を確認してください。

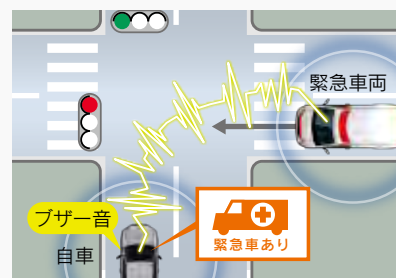
※通信利用型レーダークルーズコントロールは、先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよび場合があります。

※右折時注意喚起は、路側装置が設置された交差点であっても、路側装置の種類や、交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者がいることを注意喚起しない場合があります。なお、対向車や歩行者が路側装置（感知器）の検出範囲外に存在している場合や、路側装置（感知器）が車両の特徴や環境条件・経年変化等によって未検知や誤検知を起こす場合は、注意喚起しないことや、通知内容が実際の道路状況と異なる場合があります。ご利用可能なサービス提供場所については、レクサス販売店におたずねください。

※右記の機能は一例です。

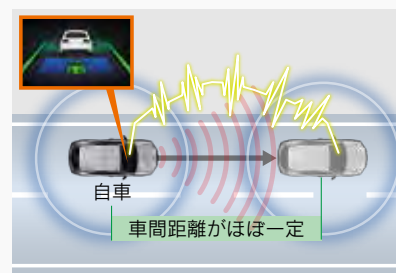
※カラーヘッドアップディスプレイは全車メーカーオプションで、パノラミックビューモニター（床下透過表示機能付）と同時装着となります。なお、パノラミックビューモニター（床下透過表示機能付）は単独で選択することもできます。

クルマとクルマがつながる車車間通信システム



緊急車両存在通知

サイレンを鳴らしている緊急車両（救急車）が存在する場合に、ブザー音で通知し、自車両に対するおおよその方向・距離・緊急車両の進行方向を表示します。救急車が見えにくい、騒音でサイレンが聞こえにくい等の状況でも、事前に緊急車両の存在を知ることが可能となります。



通信利用型レーダークルーズコントロール

レーダークルーズコントロールで先行車に追従している時、先行車が通信利用型レーダークルーズコントロール対応車両であれば、車車間通信により取得した先行車の加減速情報に素早く反応して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行が可能となります。

道路*とクルマがつながる路車間通信システム



右折時注意喚起

交差点右折時、道路側の路側装置で死角の対向車や右折先の横断歩行者を検知。接近している対向車や歩行者がいるにもかかわらずドライバーが発進しようとした場合に、表示とブザー音による注意喚起を行い、安全に右折できるよう支援します。

ITS Connectについて詳しくはこちら >

■ = 標準装備 □ = メーカーオプション